

平成30年度 研究紀要

共に感じ 共に楽しみながら

心むすぶ音楽を求めて

茨城県教育研究会音楽教育研究部

研究紀要発行に寄せて

県音研部長 川井 洋子

本年度は県音研としては重点指定年度に当たり、5つのブロックでそれぞれ研究協議会を開催することができました。どのブロックの研究協議会も、授業者の先生方お一人お一人が、目の前の子供たちに丁寧に向き合い、素晴らしい授業を展開されました。また、研究協議会では積極的な意見交換がなされ、授業に新たな視点をもったり、さらに深く掘り下げたりする機会となったことは大変有意義であったと思います。また、器楽専門部、歌唱専門部においても、様々な事業が展開され、それぞれに大きな成果を上げることができました。企画から準備、運営、まとめ等に携わっていただきました全ての皆様に、心より深く感謝申し上げます。

さて、県音研研究テーマも、新テーマが設定されてから3年が経過しました。また、平成29年7月には新学習指導要領が告示され、小学校では2020年度、中学校では2021年度の完全実施に向け、一部を移行措置として先行して実施することとなりました。そのことを受け、本県音楽科教育にも、学習指導要領の全面実施に向けた、「主体的・対話的で深い学び」の実現をに向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められています。

新学習指導要領の中で述べられている『主体的・対話的・深い学び』の3つの視点を、県音研のテーマと照らし合わせてみると、

「共に」・・・主体的・能動的・協働的、対話的

「感じ」・・・見方・考え方、感性、知覚・感受、思考・判断

「楽しみ」・・・興味・関心、見通し、音楽のよさや美しさ、音楽的な諸要素、

〔共通事項〕

「心むすぶ」・・・音楽を愛好する心情、豊かな情操、友達・集団のよさ、自己有用感
というように、「共に」「感じ」「楽しみ」「心むすぶ」の一語一語に視点がしみ込んでいることが、再確認できます。

今後は、新学習指導要領の全面実施に向けて、さらに、2022年度開催予定の関音研茨城大会に向けて、県音研研究テーマをより具現化した様々な取組が県内各地で展開されることを期待します。

【研究テーマ】「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」

これからの音楽科教育について

茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事 川野 康子

県音楽教育研究部におかれましては、数々の事業に大きな成果を上げられ、本県の音楽教育の充実のための原動力となっただけでなく、本県の音楽教育の発展に大きく貢献していただいておりますことに深く感謝申し上げます。

今年度は各地区においてブロック音楽教育研究協議会が行われました。協議会の開催に向けて先生方が集まり、念入りな検討会が何度も持たれました。子供たちに身に付けさせたい力を明確にし、ねらいを達成するため、授業においてさまざまな活動が行われました。授業の後の研究協議では、授業を行った先生はもちろん、参観された先生方による熱心な協議が行われました。参加者自身が設定した授業参観の視点で、意見を発表されていたのが印象的でした。このことは、音楽の指導に丁寧に向き合う機会となり、各ブロック全体における音楽科の指導力向上につながる大きな成果になったと考えます。

さて、2020年度、小学校では新学習指導要領が全面実施となります。移行期間の今、現行の学習指導要領が新学習指導要領ではどのように改訂されているのか、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善の取組を進めていくとはどのようなことなのか、再確認しておく必要があります。今後も国の動向を見据えながら、新学習指導要領の全面実施に向けて、一人一人の先生方が音楽科の指導の質を高める努力をしていくことが、県全体のレベルアップにつながると考えています。

最後に、県音楽教育研究部のますますの御発展と部員の先生方のさらなる御活躍をお祈り申し上げます。

今年度の成果と課題

研究推進委員長 廣瀬 隆

郡市部長・研究推進委員合同研修会（5/22・2/20）、研究推進委員会研修会（6/12）では、茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事 川野康子先生の講話をいただきました。新指導要領の実施に向けて、現状を踏まえ、丁寧なご指導をいただきました。

また、研究推進委員研修会では、「音楽づくり・創作活動を通して、思考力・判断力・表現力等を身に付ける指導の成果と課題」をテーマに、取手市立六郷小学校校長 寺田純子先生によるワークショップ、常陸大宮市立大宮中学校教諭 栗本真樹子先生の実践発表を踏まえ、意欲的な討議が繰り広げられ充実した研修を行うことができました。

今年度は、各ブロックの研究協議会（提案授業）が、小美玉市・日立市・鉾田市・かすみうら市・下妻市の各先生方のご尽力をいただき、県の研究主題「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」に迫るべく、各郡市の部長先生、研究推進委員を中心に、充実した研究会が開催されました。ご協力ありがとうございました。

次年度は、小学校の新指導要領が2020年に完全実施となることから、適切な準備を整えていかなければなりません。そのためにも、研究推進委員を中心に、今年度の研修を活かし、小中の教員が協力しながら9年間を見通し、スムーズに移行できるよう努めていかなければなりません。さらに、2022年の関音研茨城大会に向けて、ブロック間の情報交換を密にしながら、各ブロックで研究を推進できるよう努めていきたいと思っております。

歌唱専門部の成果と課題

歌唱専門部長 阿須間 京子

1 本年度の活動

○ 歌唱指導法研修会

- ・ 期 日 平成30年6月8日（金）
- ・ 会 場 小美玉市四季文化会館 みの～れ 森のホール
- ・ 講 師 蓮沼 勇一 先生（声楽家・指揮者・合唱指導者）
- ・ 受講者 105名

2 成果と課題

「今日からあなたも発声名人」という内容で、具体的な発声の方法や、日頃の授業で指導にすぐに生かせる歌唱指導法について研修した。105名の参加で、大変楽しく、充実した研修内容であった。

（受講者からの感想）

- ・ ブレスコントロールの大切さや響きの作り方について、実感を伴って理解できた。
- ・ 手や体を使って「響き」を骨格や歯、副鼻腔で感じることができ、とても驚いた。
- ・ いろいろなものを使い「響かせること」について分かりやすく学べた。
- ・ とても楽しく、子どものように夢中になって取り組めた。
- ・ 歌った曲がとても素敵で、心が元気になった。
- ・ 初めて音楽主任になりものすごく不安があった。鼻腔の使い方や動物の鳴き声等、児童が楽しく取り組める内容だったので、早速実践したい。
- ・ 自分でも声の出し方が変わったと認識できた。子供達に伝えていきたい。

器楽専門部の成果と課題

器楽専門部長 安達 英明

1 本年度の活動

(1) 器楽指導法並びに小学校管楽器教育指導者研修会（受講者64名）

- ・ 期 日 平成30年8月22日（水）
- ・ 会 場 茨城大学教育学部附属小学校
- ・ 内 容 リコーダー 和 楽 器 器楽合奏 コンピュータミュージック
金 管 楽 器 打 楽 器

(2) リコーダーコンテスト・フェスティバル（参加児童生徒172名）

- ・ 期 日 平成31年2月15日（金）
- ・ 会 場 茨城県鹿行生涯学習センター「レイクエコー」多目的ホール（行方市）
- ・ 参加校 小学校重奏の部 3校 小学校合奏の部 7校
中学校重奏の部 1校
フェスティバルの部 4校（小2，中1，義務1）

2 成果と課題

器楽指導法研修会では、講師の先生方の熱心な指導と受講者の積極的な参加により充実した研修が行われ、内容的にもすぐに授業に生かせるものが多く、指導の幅を広げることができた。リコーダーコンテスト・フェスティバルでは、係員の先生方の献身的な取組によりスムーズな運営が行われ、児童生徒の発表機会を盛り上げることができた。

中央ブロックの成果と課題

中央ブロック部長 藤田 洋一

1 研究の概要

(1) 研究主題

共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて
～ つなげよう 伝え合おう 深めよう ～

(2) 研究主題について

中央ブロック音楽教育研究部では、県音楽教育部の研究テーマ「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」を受け、サブテーマとして「～ つなげよう 伝え合おう 深めよう ～」を設定した。

今回の学習指導要領の改訂では、「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと」が求められている。その中の「協働」というキーワードをしっかりと捉え、友達と関わりながら音楽活動をすることによって、子ども同士でのコミュニケーションや子どもと教師とのコミュニケーションなどがより深まっていくのではないかと、思いや意図を他者と伝え合うことによって、深い学びにつながるのではないかと、様々な形で人と「つながる」その積み重ねが、自立的に生き、社会に参画する力、社会を生きぬく力を生み出す大きな要素となるのではないかと考えた。また、音楽科の領域である歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の内容が、それぞれに独立するのではなく、相互に関連し合うことによって、音楽的に「つながる」活動としたいと考えた。

改訂のポイントである「主体的・対話的で深い学び」のためには、人との関わりはとても大切になってくる。一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて主体的に学び、人と十分に関わり、自分の考え方・見方を伝え合うことで、さらに学びを深めさせたい。

また、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、音楽科として身に付けさせたい力や資質・能力を具体化・明確化し、これからの時代に求められる資質・能力を育んでいくことが不可欠である。音楽科で目指す「知識・理解」、「思考力判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱が相互に関連し合い、一体となって働き、全ての要素がつながるよう工夫することによって、より音楽的な力を育んでいくことが大切である。さらに、授業を通して「何ができるようになったのか」「どんな力が付いたのか」を明確にすることによって質の高い学びが構築できるようにしたい。

アクティブラーニングの視点による主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善や質の高い音楽活動を通して、音楽性ととともに生涯にわたって音楽を愛好する心情や豊かな情操を培っていきたい。

(3) 中央ブロック音楽教育研究発表会

- ① 日 時 平成30年10月4日(木)
- ② 場 所 小美玉市立玉里中学校
- ③ 授業者 小美玉市立橘小学校 教諭 宮田 直実 先生
小美玉市立玉里中学校 教諭 福田 優里 先生
- ④ 講 師 茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 川野 康子 先生

2 研究の内容及び成果

(1) 小学校 第1学年 題材名「わらべうたをたのしもう」

- ① 目標 「拍の流れを感じ取りながら、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつ。」(音楽表現の創意工夫)

② 本時までの流れ

- わらべうたを聴きながらのびのびと遊び、わらべ歌に親しむ。
 - ・ 「さんちゃんが」を聴きながら、絵を描く。
 - ・ 「おおなみこなみ」を聴いたり、音楽に合わせて縄跳びをしたりして楽しむ。
- 友達と関わり合いながらわらべうたで遊んだり歌ったりして、表現を工夫する。
 - ・ 「ひらいたひらいた」「おちゃらかほい」などのわらべうたを遊びながら歌って楽しむ。
 - ・ グループごとに、拍の流れを感じ取り、遊び方や歌い方を工夫する。

③ 展開

1 手遊び歌をする。

2 本時の学習課題を確認する。

みんなでたのしくあそぶために、うたいかたのさくせんをたてよう。

・拍の流れ ・速度 ・強弱 ・旋律 ・反復 ・問いとこたえ

3 グループごとに表現の工夫をする。

- ・ 歌い方と遊び方を確認する。
- ・ 楽しく遊ぶための工夫を話し合う。

4 全体で遊びながら歌う。

- ・ 工夫についてみんなに紹介する。
- ・ 全体で楽しむ。

④ 成果・課題

- ・ わらべ歌は、遊びの要素を含むため、友達と遊びながら歌うことで一体感（協働）が生まれた。
- ・ 話し合い活動において、共通事項の用語（拍の流れ、反復、強弱…など）をヒントカードを活用させることで、言語活動の充実を図ることができた。
- ・ 実際に歌ったり踊ったりと音を出して確かめ合うことを通して、主体的・対話的な学びを確立することができた。各グループの工夫点をクラス全体に広めていくことで、さらに楽しい音楽づくりにつなげることができた。
- ・ 共通事項などの音楽用語を、説明的になることがないよう、曲の中で必要性をもって意図的に伝えていくことが課題である。
- ・ 表現の工夫においては、児童はどうしても回数にこだわってしまう傾向があるため、情景や気持ちとの関わりや構造等にも気付くことができるような仕掛けをしていく必要がある。

(2) 中学校 第3学年 題材名「仲間とともに 表情豊かな合唱を創り上げよう」

① 目標 「聴き手に伝わる感動的な曲の山場をつくるために、曲想を生かした表現を工夫する。(音楽表現の創意工夫)

② 本時までの流れ

- 歌詞の内容や曲想を感じ取って、自分のパートを正しい音程で歌う。
 - ・ 楽譜を見ながら全体的な旋律の動きや曲想、歌詞の大まかな内容を把握し、パート別に旋律の音取りをする。
- 声部の役割を感じ取り、主旋律を意識して歌う。
 - ・ 主旋律を確認し、音量やバランスに気を付けながら、お互いのパートを聴き合って歌う。
- 歌詞の表す内容を生かしながら、曲想にふさわしい表現を工夫する。
 - ・ 歌詞の内容でイメージしたことや曲想から、音楽表現の工夫を考え、全体で共有する。
- 聴き手に伝わる感動的な曲の山場をつくるために、曲想を生かした表現を工夫する。
 - ・ 各パートで曲想を生かした表現を工夫して練習し、曲の山場を創り上げる。

③ 展開

1 発声練習をする

2 本時の学習課題を確認する。

聴き手に伝わる感動的な曲の山場をつくるために、曲想を生かした表現を工夫しよう。

- 3 曲想を生かした表現の工夫をする。
 - ・ 各パートで練習する。
 - ・ 2パートで合わせて練習する。
- 4 各パートの成果を確認する。
- 5 合唱する。
 - ・ 曲の山場となる部分を練り上げる。
 - ・ 工夫点を意識しながら合唱する。
- 6 本時の成果を確認する。
 - ・ 録音を聴いて気付いたことをワークシートにまとめる。

④ 成果・課題

- ・ 曲の山場を意識させることによって、豊かな表現につながった。
- ・ 曲想表現を通して、音楽的な感動や一体感を味わうことができた。
- ・ 生音だとクレッシェンドがよく聞こえていたが、録音だと平坦に聞こえてしまっていたので、実際に歌う中でよく聴き合うことが必要である。
- ・ 振り返りが書けない生徒への支援や方法、振り返りカードの工夫が課題である。
- ・ 生徒たちが、どうしてここを練習しているのか、生徒自身が必要性をもって練習できるような働きかけが必要である。また、発声や発音の仕方について生徒自身が、互いに聴き合うことを通して、自ら美しい響きやハーモニーを求めていけるようにしたい

(3) まとめ

「協働」というキーワードをしっかりと捉え、音楽活動に取り組みせることによって、子ども同士でのコミュニケーションや子どもと教師とのコミュニケーションが密になることが成果として見えてきた。また、義務教育の中で一番低年齢である小学校1年生と高年齢である中学校3年生の授業実践を通して、「協働」が9年間一貫して意識させたいキーワードであることも共通理解できた。

さらに、子どもたち一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて主体的・対話的に学び、生涯にわたって音楽を愛好する心情や豊かな情操を培っていくことができるようにするために、ブロック全体として授業改善に取り組んでいきたい。

(文責) 中央ブロック事務局長 菊池 綾子

県北ブロックの成果と課題

県北ブロック部長 菊地 恵美子

1 研究の概要

(1) 研究主題 「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」
～分かち合おう 一人一人の思いを～

(2) 研究主題について

一人一人が感じ取った音楽を、音や言葉、身体等で表現することを通して、音楽する喜びや感動を仲間や楽曲と分かち合い、心をむすぶ音楽を求め続ける児童を育成する。

(3) 研究協議会

平成 30 年 11 月 21 日(水)

○日立市立楡形小学校 講師 石川真裕美 先生 (筑西市立竹島小学校 教頭)

○日立市立十王中学校 講師 花田 喜龍 先生

(県国体・障害者スポーツ大会局競技式典課 主査)

2 研究の内容及び成果

(1) 小学校低学年 第2学年 題材名「音を合わせて楽しもう」

○音色や旋律のよさを感じ取ったり、反復する面白さに気付いたりする活動を行った後、音色や旋律、反復の面白さを生かして、声や音で表現する学習をした。

① 目標 「パートの役割を意識し、声や音を合わせて演奏しよう」

② 展開

学習内容・活動	教師の援助・評価 (◎評価基準・方法)
<p>1 前時の振り返りをして、本時の確認をする。</p> <p>(1) 歌パートと楽器パートの確認をする。</p> <p>(2) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>歌パートと楽器パートを合わせて そうぞうしたくじらに合ったえんそ うをしよう。</p> </div> <p>2 グループにわかれて、歌パートと楽器パートを合わせて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌と鍵盤ハーモニカ ・歌と木琴 ・歌と鉄琴 ・歌とオルガン ・歌とキーボード ・歌とバスマスター 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌パートの弾むようなリズム(スキップのリズム)でぷっかり浮かぶ軽い様子で、乱暴な声にならないように歌い方の確認をする。 ・鍵盤ハーモニカでは、音符や音の長さ、休符やポジション移動に気を付けることを確認する。 ・歌の弾むリズムと、楽器パートの拍の流れを感じるようなリズムの対比を、楽譜を見たり音を聴いたりして確認する。 ・歌声と楽器が合わさる響きを感じながら、自分たちのくじらに合うように演奏することが本時のめあてであることを伝える。 ・イメージのくじらを確認して練習するように伝える。 ・発表の前にグループで練習することで、不安を抱きがちな児童も安心して取り組めるようにする。 ・スムーズに演奏できる児童は、運指や音色について友達にアドバイスしたり教えたり、音量のバランス、人数はよいか考えたりするように伝える。 ・拍、リズムを合わせるように伝える。

<p>3 グループごとにどんなくじらをイメージしたのか紹介して演奏の発表をする。聴いた感想を発表する。</p> <p>〈くじら〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふんわりしたくじら ・強そうなくじら ・やさしくじら ・元気なくじら ・かわいいくじら <p>〈感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌声がリズムにのっていて、鍵盤ハーモニカの音と合っていて元気なくじらにぴったり。 ・キーボードでフルートの音だと知った。きれいなやさしい響きでやさしくじらだ。 <p>4 本時を振り返り、次時の学習内容を確認する。</p> <p>(1) ワークシートで振り返りをする。</p> <p>(2) 次時の学習内容のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こぐまの二月」の音楽では、低音が加わり、3つのパートで演奏を楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでどんなくじらをイメージしての演奏なのかくじらの絵を紹介して演奏するように準備する。 ㊦ 歌声と楽器の音の組合せによる響きを聴きながら、旋律の特徴やフレーズを生かして演奏することができる。(演奏聴取) ・聞き手は選んだ楽器に注目しながら紹介されたくじらが感じられているか聴くように伝える。 ・「音楽を表す言葉」(やさしい、あかるい、きれい、うきうき、楽しい、ふわふわなど)を掲示することで、その言葉を使って発表できるようにする。 ・使った楽器の音色やグループのくじらとの関係はどう感じたか、イメージのくじらが感じられたのはどんなところか、発表するとよいことを伝える。 ・自分のグループの楽器や音色、他の発表グループの楽器や音色を比べてどう感じるか、発表するように助言する。 ・発表を聴いて、音色等で感じたことを、ワークシートにまとめられるようにする。 ・掲示物の「音楽を表す言葉」を使ってもよいことを伝える。また、発表に出たら提示や板書をして語彙を増やせるようにする。 ・次時への意欲につなげる。
---	---

(2) 小学校高学年 第4学年 題材名「いろいろな音の響きを感じ取ろう」

○各楽器のもつ音色や声の組み合わせによって、響きが変化することを感じ取り、自分たちで楽器の組み合わせや演奏する順番、音の重なりを工夫して打楽器の音楽をつくる学習をした。

- ① 目標 「音の組み合わせを工夫し、響きの違いを生かして表現しよう」
- ② 展開

学習内容・活動	教師の援助・評価 (㊦評価規準・方法)
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>打楽器を使って、楽しい曲をつくろう。</p> </div> <p>〈予想される児童の発言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の組み合わせ ・楽器の順番 ・楽器の重ね方 ・反復 ・変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時音楽づくりで使用する図形楽譜カードを活用して手で音を出し、リズムウォーミングアップをする。 ・全員で音を合わせることで、楽しい雰囲気をつくる。 ・学習課題の「楽しい」について、どんな工夫をすれば楽しくなるかを意見交換し、どのようにつくっていけばよいのか見通しを持てるようにする。
<p>2 音楽づくりの方法を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1 工夫することをグループで話し合う。</p> <p>2 図形楽譜カードを始め、中、終わりに並べる。</p> <p>(8小節つくる)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・反復や変化のカードを掲示し説明して、音楽の仕組みを生かしながら音楽づくりができるようにする。 ・自主的に活動が進むように、音楽づくりの手順を説明し掲示しておく。 ・グループでの方向性を決めて、グループ活

(4種類すべてのカードを使う)

3 図形楽譜を見ながら試す。
↓↑
4 改善点を考える。
5 吹き出しカードに工夫のポイントを書く。
6 練習する。

3 グループで音楽をつくる。
<例>

はじめ

クラベス	○○○○			
タンブリン		○○○○		
トライアングル			○○○○	

4 ペアグループで聴き合い、感想を全体で交流する。
(1) ペアグループで聴き合う。



木・皮・金属の楽器の音が組み合わせさっておもしろかったです。

強い弱いをもっとはっきりさせると楽しく聞こえると思います。



(2) 全体で感想を交流する。

- 動がスムーズにいくようにする。
- 楽器の交換もしていいことを伝え、より納得のいく曲に仕上げるようにする。ただし、意図をもって交換することを押さえる。
- 図形楽譜が完成したら、工夫のポイントが分かるように、吹き出しカードには短い言葉で書くようにする。
- 練習までの時間が終わったら、ペアグループで聴き合いをすることを伝え、グループ活動への意欲をもたせる。

- グループを周りながら活動の進み具合を見て、適宜アドバイスをし、活動を促す。
- 音楽の仕組みを生かしているか確認し、つくり方について支援する。
- I児とO児に声をかけ、グループ活動に参加できるようにする。また、がんばっているときは賞賛し、意欲を持続できるようにする。

㊦ 打楽器の音色に気をつけて、組み合わせや重なりを工夫して、音楽をつくったか。
(発言内容・演奏観察)

- 本時課題を再度確認し、「楽しい」を聴き合いのポイントにすることを押さえる。
- 発表するグループは、書いた吹き出しカードを活用して、音楽づくりのポイントを説明するようにする。
- 2つのグループで聴き合い、よりよいものにするために「楽しかったところ」と「アドバイス」を意見交換する。
- ペアグループで聴き合った感想や次時に改善したいことなどを発表し、自分たちのグループの演奏に生かすようにする。
- 本時の音楽づくりについて各自振り返り、学習カードに書く。
- 次時は、練習後発表会をすることを確認し、意欲をもたせる。

(3) 中学校 第2学年 題材名「イメージをもとに構成を工夫して音楽をつくろう」
○本校独自の創作芸能「鵜鳥舞」の物語に合う創作を行った。場面ごとのグループに分かれ、各場面に合う音楽をイメージ構想し、楽器を選び、試行錯誤しながら楽曲をつくる学習をした。

- ① 目標 「物語に合うような音楽表現を工夫しよう」
- ② 展開

学習内容・活動	教師の援助・評価 (㊦評価規準・方法)
1 本時の学習内容を確認する。 物語に合うような音の選択や組み合わせを工夫して、十王の伝説を盛り上げるための曲をつくろう。	<ul style="list-style-type: none"> 前時でつくった楽譜等は残しておき、創作の過程で何度も試せるようにすることを確認する。 本時の最後に、何グループかできたところまで発表してもらうことを伝える。

<p>2 グループごとに前時を振り返り、今日の練習内容について話し合う。</p> <p>〈話し合うポイント〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・物語のイメージに合うのはどんな音色か。 ・どんな旋律がよいか。 ・どんな構成でつくるか。 </div> <p>3 物語のイメージに合った音楽表現を工夫し、グループごとに曲をつくる。</p> <p>(1) 実際に音を出しながら、物語に合った曲を考える。</p> <p>(2) 様々な奏法を試してみる。</p> <p>(3) 考えた奏法や表現方法をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜等に工夫したい点を記入する。 <p>4 できたところまでグループごとに発表する。(1～2グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を伝え合う。 <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) グループごとに今日の成果と次の課題を話し合う。</p> <p>(2) 学習カードに反省を記入する。</p> <p>(3) 次時の学習内容をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、つくりたい曲のイメージや音色についての一人一人の意見を共有するように 助言する。 ・創作が進んでいるグループは、強弱や速度などの工夫も加えて曲を仕上げるように伝える。 ・どの奏法を使って、どの場面をどのような音色で表現したいのか、ワークシートに書き込むように指示する。 <p>・グループで使う楽器の様々な奏法を試しながら、イメージに合う音色を見つけるように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音符だけではなく、言葉や文字などを使って表現の工夫を書き込むように指示する。 ・考えた表現の工夫を付箋紙に書いておき、何度も試してみるように助言する。 <p>④ 物語のイメージに合った音楽表現を工夫するために必要な、音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けて音楽をつくっている。(観察、ワークシート)</p> <p>・他のグループのよいところやアドバイスしたいところを見つけ、伝え合うことで、自分たちのグループの演奏にも生かせるようにする。</p> <p>④ 音楽で表現したいイメージをもち、和楽器の音色などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。(観察、発表、ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの反省から次時の課題が見つけれられるようにする。 ・次の時間には全部のグループが発表することを予告する。
--	--

3 成果と課題

本ブロックでは、音楽づくりと器楽の2つの領域で、音楽活動の支援の仕方、グループ活動時における一人一人の創意工夫の評価の見取り方について研究を進めてきた。

研究協議会の指導講評では、作品に仕上げる過程で、音楽としてのよさを共同から協働へ高めるために、発問や声かけ等教師の働きかけが大切であること、振り返りから次時への課題が生まれる流れをつくるのが大事であること、また、評価については、1単位時間の「付きたい力(目標)とめざす姿」を明確にもち、児童生徒が学習を通して「学んでいる姿」で評価すること等のご指導をいただいた。

今後は、新学習指導要領に求められる主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るために、効果的な指導の手立てを工夫していきたい。

(文責 県北ブロック事務局長 佐藤 礼子)

県東ブロックの成果と課題

県東ブロック部長 阿須間 京子

1 研究の概要

(1) 研究主題 「～共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて～」

県東ブロックサブテーマ ～感じ取り 表現し 伝えよう～

(2) 研究主題について

本ブロックにおいては、県の研究主題を受けて、主題に込められた「思い」や「願い」を具現化するための取り組みとして、「感じ取り 表現し 伝えよう」を研究テーマと設定し、研究を進めた。

本研究では、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の関連を図りながら、「音楽のよさや楽しさを感じる」とともに、思いや意図をもって表現したり味わったり聴いたりする力の育成」を目指し、音楽の仕組みや構成を手掛かりとして、楽曲のイメージに合った音楽を創って表現する活動に焦点を置いた。

(3) 音楽実技研修会

①期日：平成30年7月31日（火） ②講師：北村 正彦先生

③会場：茨城県女性プラザ ④内容：授業に生かせるリコーダーの指導法と重奏・合奏指導

(4) 音楽研究協議会

①期日：平成30年10月30日（火）

②会場校及び授業者

授業公開：銚田市立旭東小学校 授業者 銚田市立旭東小学校 藤岡 美咲

授業者 銚田市立旭東小学校 石坂 寿代

銚田市立旭中学校 授業者 銚田市立旭中学校 中澤 知子

③講師

（全体会）茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 川野 康子 先生

（小学校）潮来市立潮来第二中学校 教頭 尾花 淳 先生

（中学校）神栖市教育委員会 指導主事 幡 明枝 先生

2 研究の内容及び成果

(1) 小学校低学年 第2学年 題材名 いい音見つけて

○鑑賞曲「ゆかいな時計」や打楽器演奏から楽器の音の面白さに気づかせ、「森のたんけんたい」の学習では、初めに言葉に合わせてリズムを打つ活動を取り上げる。

①目 標 音色，速度，強弱の変化を工夫し，どのように表すか考えながら，楽器で会話する。

②展 開

時間	学習活動・内容	指導上の留意点 (◎評価, ㊟ゆさぶり, △ESDの視点)
8分	1 「森のたんけんたい」を歌ったり，リズムにのって打楽器を演奏したりする。 2 学習課題をつかむ。	・楽しい雰囲気の中で，学習が進められるようにする。 ・手作り楽器も含め，多くの打楽器を準備する。 ・前時でつくった呼びかけ（「いっしょにあそぼう」）の続きを

	ともだちとお話のつづきを考えよう。	考えることを伝え、学習への意欲を持てるようにする。 ・問いを考えたのと同様の方法で学習を進めることを伝え、児童が学習の流れを見通すことができるようにする。
5分	3 答えや続きの言葉をグループで考える。 (予想される反応) ・いいよ ・なにしてあそぶ	・グループで考える活動にすることで問いの答えや続きの言葉が多様に出てくるようにする。
27分	4 ペアで会話を練習する。 (1) どんなリズムにするかを決める。 (2) 音の強さや音色、強弱、速度の工夫を考える。	・ワークシートに会話を記入させ、スムーズにリズムを考えることができるようにする。 ・いくつかのペアの考えを発表させることで、行き詰っているペアが考える手立てとしたい。 △ペア活動において、友達の意見も尊重しつつ、自分の考えも簡潔に伝えるように声かけをする。 ・楽器の音を出して、音の出し方や打つ場所によっても音色が変化することを伝え、気持ちに合った音色や強弱を考えさせる。 ④ 同じ言葉であっても音の強さや強弱、速度を変えてみせることで、印象が違うことに気付かせる。 ・リズム打ちだけでも気持ちが伝わるように、体全体を使って演奏できるように助言する。 ・グループで一度交流の場を設けることで、どの児童も本時の活動の達成感を得られるようにする。 ⑤ 音色、強弱、速度を変化させ、リズムを工夫しながらどのように表すかについて思いや意図をもっている。(観察ワークシート) ・同じ動物であっても、ペアによって多様な会話表現があることに気付かせる。 ・児童の発表を肯定的に受け止め、積極的に発表できる雰囲気づくりに努める。
	5 グループに戻り、作った会話を交流する。	・グループで一度交流の場を設けることで、どの児童も本時の活動の達成感を得られるようにする。
	6 代表発表をする。	⑥ 音色、強弱、速度を変化させ、リズムを工夫しながらどのように表すかについて思いや意図をもっている。(観察ワークシート) ・同じ動物であっても、ペアによって多様な会話表現があることに気付かせる。 ・児童の発表を肯定的に受け止め、積極的に発表できる雰囲気づくりに努める。
5分	7 本時のまとめをする。 (1) 本時をふり返り、感想を発表する。 (2) 次時の学習について知る。	・ペアで協力して、会話づくりができたことを称賛する。 ・頑張ったことを振り返り、自己評価する中で次時の学習への意欲付けを図る。 ・次時では、本時の活動を生かして、全体で発表会を行うことを知らせる。

(2) 小学校高学年 第6学年 題材名 「きらきらフェスタ」のオープニングの曲をつくろう

○循環コードの例を鑑賞し、伴奏の繰り返しや反復、変化などの曲の特徴を感じ取り、循環コード例 (I → IV → V → I, I → V → II → V) を使って4小節の伴奏をつくる。

- ① 目標 循環コードが生み出すよさや面白さを感じながらその仕組みを生かし、自分の考えや願い、意図をもって、まとまりのある音楽をつくる。

② 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点 (⑦評価, ⑧ゆさぶり, △ESDの視点)
7分	1 和音クイズを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな音かそうでないかを判断できるようにクイズを出し、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。 ・前時までの旋律づくりを振り返り、本時では、言葉と合わせた旋律づくりをしていくことを確認する。 ・各グループで考えた歌詞を見直し、旋律のイメージをもつことができるようにする。 ・旋律づくりのルールの確認をし、グループで4小節の旋律を作ることを伝える。 ・前回までにつくった循環コードと伴奏をコンピュータに保存しておき、そこに音を重ねるようにつくるよう助言する。 ・伸ばす音がある場合は、どの部分に用いるかによってリズムが変わることを説明し、リズムや節に変化を付けられるようにする。 ・グループでどんな音楽にしていくかの方向性
18分	2 本時の学習課題をつかむ。 「きらきらフェスタ」にふさわしい、オリジナルのせん律をつくろう。 3 旋律づくりをする。 (1) 旋律づくりのルールを掲示する。 ○始めの部分は、「ド」「ミ」「ソ」のいずれかで始める。 ○音のイメージ図に合うせん律をつくる。 ○終わる部分は「ド」になるようにする。 (2) 前時までの考えをもち寄り、グル	

	<p>ープで旋律を考える。</p> <p>(予想される反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニングだから、元気のよい曲がいいな。 ・楽しく弾んだ感じがいいな。休符を入れてみよう。 ・伸ばす音も使ってみようよ。 ・この言葉は強調したいから、高い音にしよう。 ・音がにごってきこえるな。きれいにするにはどうしよう。 	<p>を確認し、グループで1つの音楽にまとめ、五線譜に記入していくこと、また、グループ全員の考えを用いることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで曲を作りやすい楽器を選ぶようにし、必要に応じてはコンピュータを活用する。 ・共通事項「音楽を特徴付けている要素」「音楽の仕組み」を掲示しておき、共通事項に気をつけながら旋律作りや発表ができるようにする。 ・言葉と旋律が合わない場合は、言葉を変えてもよいことを確認する。 ⑩音がにごって聴こえることに気付かないグループにはにごらない音を聴かせ、さらにきれいな音楽にするためには、どのような音を使ったらよいかを考えるよう助言する。 ・音楽づくりで工夫したところを発表してから演奏するようにする。 <p>△友達のグループの発表を聴いて、「音楽を特徴付けている要素」「音楽の仕組み」に沿って良いところを褒めたり、考えを交流したりするようにする。</p> ⑪循環コードが生み出すよさや面白さを感じながらその仕組みを生かし、自分の思いや意図をもって、まとまりのある音楽をつくっている。(音楽表現の創意工夫：観察、ワークシート) ・意欲的に取り組んだグループや、表現を工夫したグループを称賛する。 ⑫更に良くするためにはどうしたらよいかを投げかけ、次時の課題を見つける。
15分	<p>4 グループ同士で聴き合い、考えを深め合う。</p> <p>(予想される反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はずんだリズムが楽しそうだね。 ・言葉と旋律が合っているね。 ・高い音で「きらきら」という感じが表されているね。音の大きさを変えると雰囲気合うね。 	
5分	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 代表の班の発表を聴く。</p> <p>(2) 本時を振り返る。</p> <p>(3) 次時の学習活動を確認する。</p>	

(3) 中学校 第3学年 題材名 コード進行の特徴を生かして旋律をつくろう

①目 標 コード進行の特徴や反復、変化、対照などの構成を感じ取り、思いや意図をもって、表現したいイメージにふさわしい旋律をつくる。

②展 開

時間	活動・内容	教師の援助・評価(⑩は評価規準・方法)
		◇E S D (接続可能な開発のための教育) の視点
3分	1 前時の振り返りをする。	・前時に学習したことを想起させ、本時の学習課題をつかみやすくする。
2分	2 本時の学習課題を確認する。	・前時に自分のつくった旋律を組み合わせ、改善して、より表現したいイメージに合う旋律に仕上げることに意欲をもたせる。
10分	<p>表現したいイメージにふさわしい旋律をつくるためには、どうしたらよieldろうか。</p> <p>3 前時に各自つくった旋律をつなげて聴き、意見交流する。</p> <p>(1) 個人で考えをまとめる。</p> <p>(2) 意見交流する。</p>	・つくった旋律を音楽ソフトの再生機能で聴き、気付いたことや感じたことについての意見交流を通して、改善点を見つけ、伝え合えるようにする。
25分	<p>4 創作活動をする。</p> <p>(1) リズムの工夫</p> <p>(例)「J」→落ち着きのある 穏やかな 付点→楽しく元気な</p>	・単にリズムを複雑にするのではなく、表現したいイメージに合うような旋律になるように、リズムを工夫できるようにする。
		・和音(コード)構成音以外の音を使うことで、音のつなげ方を改善できることに気付かせ、

	細かい→急いでいる		創作の工夫ができるようにする。
	(2) 音のつなげ方の工夫		・各フレーズの終わり方のリズムや音，反復，変化，対照などの構成を工夫することで，まとまりのある旋律に仕上げるよう伝える。
	(例) 順次進行→平穏な，滑らか 跳躍進行→力強い，勢い		・活動が進まないグループには，例を提示し，イメージをもって活動できるよう支援する。
	(3) 構成の工夫		・つくった旋律をリコーダーやキーボードで演奏して，気に入った音の動きになっているか確かめながら，試行錯誤させる。
	(例) 反復→強調感，安心感 変化→新鮮さ		・記譜が苦手な生徒には，リズム譜に階名を書いて記録できるようにする。
			・再生が難しいグループには，音楽ソフトを活用して，音を聴いて確認できるよう支援する。
			◇ グループ活動で，気付いたことや感じたことについて意見交流し，協力・協働して活動することができるようにする。
			◎どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもって表現を工夫し，旋律を創作している。(ワークシート)
7分	5 グループでつくった旋律を発表し合う。		・自分の思いや意図に合っているかを，楽器で演奏して改めて確認し，ワークシートに記入させる。
			・1～2グループ程度をグッドモデルとして発表させる。
			・音源や楽譜を提示することで，改善前後の比較ができるようにする。
3分	6 本時のまとめをする。		・活動のよさを確認したり，補足を加えたりしてまとめる。
	(1) まとめをして学習を振り返る。		・次時の最初に更に改善する時間があることを告げ，次時へ意欲をもたせる。
	(2) 次時の内容を確認する。		

3 成果と課題

本ブロックにおいては，それまで歌唱・器楽・鑑賞を中心とした授業が多い傾向にあったことから「音楽づくり・創作」に焦点を当てた研究を6年間進めてきた。今年度は，新学習指導要領における観点の変更を踏まえ，児童生徒の思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための音楽活動に取り組むことができた。

研究協議会における講師指導においては，「音楽づくり・創作」では小学校で種をまくこと，歌唱や器楽で身に付けた技能が創作に繋がること，子どもの実態を把握したうえで指導すべき内容や課題を設定することなどご指導をいただいた。

今後は，新学習指導要領に対応するための計画や我が国や郷土の音楽に関する学習指導の研究を深めていきたい。

(文責 県東ブロック事務局長 若松 孝子)

県南ブロック成果と課題

県南ブロック音楽教育研究部長 廣瀬 隆

研究主題 「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」
～ 感じよう 伝え合おう みんなで音楽 ～

- 1 期 日 平成30年11月21日(水)
2 会 場 かすみがうら市立下稲吉東小学校「(小中学校授業, 分科会会場)」
3 助言者 小学校 : 板谷亜由美 先生
(つくば市教育委員会教育指導課参事(兼)総合研究所所長)
中学校 : 川野 康子 先生
(茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事)

4 公開授業

学 校 名	学 年	題材・内容	指導者	場 所
下稲吉東小学校	第2学年	ひょうしをかんじてリズムをうとう	鈴木晴美 他	体育館
下稲吉東小学校	第6学年	ぼくたちの越天楽をつくろう	井坂 恵利	音楽室
千代田中学校	第3学年	楽器とリズムを組み合わせて演奏しよう	大竹 理子	多目的室

(1) 小学校第2学年音楽科学習指導案(11/11)

目 標 : リズム譜に慣れ親しみながら, 楽しんでリズム遊びをすることができる。

展 開

時 間	学習活動及び内容	準備資料	指導上の留意点(●)と評価(◆) エバーサルの支援 <input checked="" type="checkbox"/>
0	1 学習する雰囲気をつくる。 ・テーマ曲「さんぽ」を身体表現をしながら歌う。		・学年音楽のテーマ曲を伸び伸びと歌い身体表現をすることで, 音楽の楽しい雰囲気をつくる。伴奏はT4が担当する。
5	2 本時のめあてを確認する。 いろいろなリズム遊びを楽しんで, リズム名人になろう。 ・前時に各コーナーを回った児童が感想を発表する。		◎本時の学習に, 見通しをもって取り組むことができるようにするために, 学習の流れを提示する。 ・T1は各コーナーを回る時の約束を確認して児童がスムーズに活動ができるようにする。 ・前時で各コーナーを回った児童から感想やアドバイスをださせて, 全員で共有し, 意欲付けにつなげる。
8	3 リズムの問題を出す人と挑戦する人の二手に分かれ, 5つのリズムコーナーを回っていく。 (6分ごとにコーナーを移動) 学習する〔共通事項〕の音符や休符  A 2びょうしリズムコーナー 「山のポルカ」に合わせて, リズム伴奏をつける。 B やまびこ楽器さがしコーナー ◎ つい立を設置し, 挑戦者に見えないように, 5種類の楽器から好きなものを選び, リズム打ちをする。 ◎ 聞こえた楽器とリズムを当てる。 C リズムでお買い物コーナー ◎ 音符の名前カードを提示する。 ◎ 2枚(音符・リズム唱)のカード	名人カード シール 拡大譜 リズムカード カスタネット タンブリン すず クラベス トライアングル	・児童は名人カードを胸にかけて回る。5つのコーナーで十分にリズム遊びを楽しませ, 各コーナーで用意してあるシールを貼りながら進ませる。 ◎ グループの移動がわかりやすいように, 名人カードの紐を5色に色分けする。 ・コーナーの移動には決められた音楽を流し, その間に速やかに動けるようにする。 ・どの児童も楽しく各コーナーを回れるように, リズム打ちが苦手な児童に対しては児童同士が積極的にヒントや助けを出し合う気持ちを大切にさせる。 ・T4はAの活動の支援にあたり, リズム伴奏が苦手な児童を中心に, 一定の速度で最後までリズム打ちができるよう隣で拍子を打ちながら支援していく。 ・T3はBの活動の支援にあたり, 鳴らした音やリズムがよく聞こえるよう, 静かな環境を作れるように配慮する。 ・T5はCの活動の支援にあたり, 特に配慮が必要

40	<p>を正しく組み合わせるを選び、お買い物をする。</p> <p>Dたいこでリズム打ちコーナー ㊦用意してあるリズム譜の中から、4枚を選び並べて提示する。 ㊧出されたリズムカードを、たいこで演奏する。</p> <p>Eバンブーダンスコーナー 「いるかはざんぶらこ」に合わせてバンブーダンスをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ステージ (B) (C) (D) (A) (E) </div> <p>4 本時の学習のまとめをする。 ・楽しかったこと、上手にできたことを発表し合う。</p>	音符カード 和太鼓 リズム譜のカード 竹 ゴム	<p>な児童を中心に、一緒にカードを選びながら進むことで、楽しくお買い物できたという喜びをもたせるようにする。</p> <p>㊦たいこのリズム譜にリズム唱をつけておくことで、リズム譜に抵抗がある児童でも口ずさみながらリズムを打ちができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T1はDの活動の支援にあたり、リズム打ちが困難な児童に対して、リズムを打つ速度を落とすよう助言し、リズム唱を口ずさみながら見守る。 ・バンブーダンスは難易度別に3種類の方法を用意しておく。 ・T2はEの活動の支援にあたり、児童が怪我のないようにダンスを見守る。また選ぶ種類の助言をしたり、苦手な児童に対しては横について同じ動きをしながらサポートに当たる。 <p>◆リズム譜に慣れ親しみながら、楽しんでリズム遊びをすることができる。(行動観察・演奏聴取)〔技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動でのよいところや頑張っていたところをしっかりと賞賛し、達成感や次時の活動への意欲付けを高めたい。
----	--	-------------------------------------	---

(2) 小学校第6学年音楽家学習指導案(5/6)

目標：自分たちの「越天楽」のテーマを決めて、旋律に修正を加えることができる。
 展開

時間	学習活動及び内容	準備資料	指導上の留意点(・)と評価(◆) ユニバーサルの支援 ㊦
0	1 今月の歌を歌う。 「君のをせて」		<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびとした声で歌わせ、音楽を学習しようとする雰囲気をつくる。 ・歌う姿勢、発声に注意して歌うことができるよう助言する。
5	2 本時のめあてを確認する。 テーマを決めて旋律を見直そう。	学習カード	<p>㊦本時の学習に、見通しをもって取り組むことができるようにするために、学習の流れを掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマから、歌の中で最も強調したい部分を見つける。 ・最も表現したい部分を、高い音か、長い音にすると強調されることをアドバイスする ・箏を使って、旋律の確認をする。
8	3 短歌を読んで、テーマを考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・短歌の中で、最も表現したいことをテーマとすることを知らせる。
10	4 前時につくった旋律を確認する。	タブレット	<ul style="list-style-type: none"> ・最も表現したい部分が、高い音か、長い音になっているか確認する。 ・箏譜で確認が難しいときは前時に録画したタブレットを利用して確認する。
15	5 旋律がテーマを表現して	箏	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしにくい部分は、実際に箏で旋律を確認しな

40	<p>7 本時の活動のまとめをする。</p> <p>いるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の言葉より低い音になっているから変えてみよう。 ・伸ばす音にならないかなあ。 ・どの音を伸ばすと歌いやすい旋律になるかな。 ・前後とつながらなくなかないかな。 	<p>学習 カード</p>	<p>がら、考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏を使って旋律をつくったり、箏譜を使って旋律をつくったりすることにより、日本の文化や伝統を尊重する気持ち、大切にしようとする心を育成する。 □旋律が、言葉に添う形であることを基本に考えさせるが、思いつかないようなときは、いくつかパターンを提示して考えやすくする。 ・前時に録画したタブレットで確認しながら、見直した部分が良くなっていることを確認できるようにする。 ・自分の意見に自信が持てない児童には、近くでメロディー唱をして、変化を一緒に確認し、自信をもって演奏できるように支援する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆テーマを決めて、テーマに合った旋律になるよう見直すことができる。 (活動観察・演奏聴取) [音楽表現の創意工夫]</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループ内で発表し、良いところを発表したり、アドバイスをしたりしながら、全体での発表に向けてよりよい作品になるよう工夫する。 ・本時の活動で良くなった点を確認、賞賛し、次時の発表に向けて自信が持てるようにする。
----	--	-------------------	--

(3) 小学校第6学年音楽家学習指導案 (3 / 5)

目標：音素材（音色）とリズムの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、ラテン打楽器の特徴と基礎的な奏法を生かしてふさわしいリズムを組み合わせ、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。

展開

時	学習内容と主な学習活動	指導上の留意点（・）と評価（◆）
0	<p>1 本時の導入を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキーラの模範演奏を聴く。 <p>2 本時の課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「テキーラ」の演奏を聴くことで、曲の雰囲気や演奏するイメージをつかみ、活動への意欲を喚起できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>楽器とリズムを組み合わせる自分たちの「テキーラ」をつくろう。</p> </div>		
5	<p>3 前時までに学習したリズムパターンを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に貼ったリズムパターンカードを見ながらリズムを確認することで、その後の活動にスムーズに入れるようにする。
10	<p>4 活動の流れを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大した計画表を用いて活動の流れを説明することで、生徒が見通しを立てて主体的に活動できるようにする。
13	<p>5 グループごとに、前半部分のリズム伴奏案を考える。</p> <p>①打楽器の特徴と奏法を生かして、曲にふさわしいリズムを組み合わせる。</p> <p>②合わせて演奏してみる。</p> <p>③①と②を繰り返す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器が不足している部分は、マラカスにしたペットボトル、空のペットボトルを楽器の代わりとする。 ・グループごとに楽器の試し打ちの時間を設け、自分たちの楽器とリズムの組み合わせが曲に合っているかどうか確かめられるようにする。 ・何を選んでよいか分からないグループには、まず、興味のある楽器を選び、その楽器の発音原理を生かしたリズムが選べるように助言する。

	<p>〈活動図〉 数字=グループ番号</p>  <p>6 ねらいにせまれているグループの演奏を聴き、自分たちの計画と比較する。</p> <p>40 7 CD の伴奏に合わせ、全グループ一緒に前半部分の試し演奏をする。</p> <div data-bbox="256 696 1409 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆音素材（音色）とリズムの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、ラテン打楽器の特徴と基礎的な奏法を生かしてふさわしいリズムを組み合わせ、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（計画表記入・振り返りシート）〔創意工夫〕</p> </div> <p>45 8 次時の活動について説明を聞き、振り返りカードを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに試し演奏をするよう声をかけ、意見を交換し合い互いの思いを共有することで、主体的・協働的に活動できるようにする。 ・各グループの進捗を見ながら「テキーラ」の伴奏 CD を流し、自由に試し演奏ができるようにする。 ・発表グループの演奏を、自分のグループの計画と比較しながら聴くように声を掛ける。 ・リズムの反復と変化の使い分けに注目させことで、グループの計画を見直すきっかけがつかめるようにする。 ・計画が立てられたところまででも良いことを伝え、全員が楽器やペットボトルで自分のリズムを演奏し、アンサンブルのイメージがつかめるようにする。 ・各グループの活動の様子を称賛することで、次回のグループ練習への意欲を喚起できるようにする。
--	---	--

5 成果と課題

《小学校第2学年》

- 5つのブースに分かれてお店屋さんごっこの要領で学習活動することで、苦手意識を克服して四分音符、2拍子、3拍子などの〔共通事項〕を身に付けることができた。〔共通事項〕を意識して指導を重ねることで、中学年、高学年につなげていく計画ができていた。
- みんなが参加し、遊びを通して教え合い学んでいたが、遊びの中にも自分たちで考えたルールがあった。
- 支援が必要な児童への対応として、ヒントカードを用意したことで、分かる授業が実践できた。
- 次の時間につながる学習のまとめ方を研修していきたい。
- 体育館で学年一斉の授業だった。音に集中して聴くことができる場の設定の工夫も必要だった。

《小学校第6学年》

- 題材を工夫し、「ぼくたちの越天楽をつくろう」という創作活動を取り入れたところ、意欲的に学習活動に取り組んだ。
- 国語科との関連を図り、日本の伝統的な音楽と短歌を合わせて学べる学習内容ができた。
- 創作をする楽器を箏にしたので、児童にとって横書きにした漢数字の楽譜が理解しやすかったこともあり、発想を生かした創作活動ができた。
- 創作活動を通して、音階のもつ雰囲気を自然に感じ取っていた。
- 創作した曲をタブレットで振り返っていたが、音がよく聞こえていなかった。聴くコーナーの設定やイヤホンの準備が必要だった。
- 子供たちの作品の中から「グッドモデル」を示して工夫改善させるとさらに良かった。

《中学校第3学年》

- 普段の授業から工夫のための話合いを取り入れているので、リズムのアレンジについて意欲的に話合いが行われていた。
- 発表を聴き合い、グッドモデルを参考に工夫改善できていてよかった。
- 必要に応じて記譜できるようにしたい。ICTの活用も工夫したい。（創作した作品や演奏の記録方法）
- 一人で考えることが難しい生徒もいるので、ワークシートを工夫し、全員が話合いに参加できるようにしたい。

県西ブロックの成果と課題

県西ブロック部長 安達 英明

1 研究の概要

(1) 研究主題 共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて
～ 感じよう 伝え合おう ～

(2) 研究主題について

県西ブロック音楽教育研究部では茨城県音楽教育研究部の研究主題を受け、主題に込められた思いや願いを具現化するために、副題を「感じよう 伝え合おう」として研究を進めてきた。

本年度、県西ブロック音楽科授業研究会が下妻市で行われた。下妻市音楽教育研究部では、昨年度に、小学校4年生における「音楽の仕組みを生かして」と題材を設定し、音楽づくりの授業研究を行った。授業後の話合いでは、音の様々な特徴に気付き、音楽づくりのための発想を大切にしながら即興的な表現活動を積極的に試すことが大切であること、そして、音を音楽へと構成していくプロセスの中で、児童が自分たちの思いや意図をどのように生かして表現するかが重要であることを確認した。

そこで今年度は、協働的な学習を充実させる中で、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会における多様な音や音楽を感じ取る感性を高め、思いや意図をもって音楽活動に取り組めるような授業づくりを行ってきた。また、授業づくりをする際に、「何のために学ぶのか」「何ができるようになったか」「できることをどう使うか」を常に意識し、題材構成を工夫するようにしてきた。

2 研究の内容

(1) 授業研究会

① 期日 平成30年11月19日(月)

② 会場及び講師

小学校ブロック 下妻市立騰波ノ江小学校

講師：茨城県教育研修センター教科教育課指導主事 石津美代子 先生

中学校ブロック 下妻市立千代川中学校

講師：茨城県教育庁義務教育課指導主事 川野 康子 先生

(2) 授業の内容

① 小学校ブロック

第6学年 題材名「ドローンをもとに音を組み合わせる音楽をつくろう」

授業者 下妻市立騰波ノ江小学校 山本 晴美

題材の目標

ドローンに黒鍵と白鍵を組み合わせ、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、思いや意図をもってグループで工夫しながら音楽をつくる。

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ (◆学習活動における具体的評価規準)
1 問いと答えのリズム遊びをする。	○ 問いと答えのリズムをペアでつくって遊ぶ簡単な創作活動を設定し、音楽を楽しむ雰囲気

<p>2 前時の学習を振り返る。 音楽の構成の仕方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アの部分とイの部分のつなぎ方 ・繰り返しの長さや仕方 ・それぞれの役割 ドローン、伴奏、旋律、かざり ・終わり方 <p>3 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>気づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返ることで、本時の学習へ円滑に繋がられるようにする。 ○ 前時の学習を振り返り、グループごとの進度や完成度を具体的に確認できるようにする。 ○ 本時は、それぞれの音楽を完成させて、お互いの音楽を聴き合い、それぞれのグループのテーマを当てる活動であることを話し、意欲を高める。 ○ 本単元の音楽づくりで重視すべき音楽の仕組みについて板書用資料を使い児童に具体的に示す。
<p>友達に伝わるようにグループの「雨の音楽」を工夫し、完成させて発表しよう。</p>	
<p>4 グループで話し合い、自分たちの雨の音楽を完成させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 速さ、強弱、変化について話し合い、ワークシートに記譜をする。 (2) できた音楽を練習する。 (3) 全体の流れを考えて、他に工夫できることはないか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏の仕方 ・お互いの音の強弱やバランス (予想されるグループのテーマ) ・しとしと降る雨からザーザー降る雨に ・ぼつぼつ降る雨からザザーと降る雨に (前半→後半) <p>5 お互いの音楽を聴き合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) グループごとに音楽を演奏する。 (2) 各グループの演奏から、それぞれの音楽のテーマを考え発表する。 <p>6 本時の学習を振り返り、次時の課題を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習カードに活動の振り返りを書き、発表する。 (予想される内容) <ul style="list-style-type: none"> ・降る雨のイメージを表現するためにグループで話し合い、木琴の 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時でつくった音楽を、グループごとのテーマに合うような音楽にしていくことを話し、まとまりのある音楽に仕上げることを確かめる。 ○ グループのテーマにより近づくように、曲全体の速さや強弱、変化の付け方を工夫していくことを話す。 ○ どのように表現したいかの話し合いに終始せず、音を出しながら構成を考えるよう助言する。 ○ 話し合いの中で出た表現の工夫について、グループの拡大楽譜に随時記譜していくように指示する。また、自分たちの分かる言葉や図、絵でもよいので、できるだけ音符や記号で記譜できるように話す。 ○ なかなかまとまらないグループには、例を示しグループごとに工夫できるようにする。 ○ 早くできたグループは、音楽の仕組みを生かして、できあがった音楽に他の工夫をさらに考えるように話す。 ◆ 「雨の音楽」として、グループの思いを大切にし、曲全体の音の重なりや強弱、変化など音楽の仕組みを生かして、全体の流れを工夫している。 ○ ワークシートに各グループの音楽の特徴を記入できる欄を設け、テーマを見付ける手がかりにする。 ○ 黒板に掲示した4つのテーマがどのグループのものか、根拠を基に発表するよう指示する。 ○ 教師の視点からのそれぞれのグループの音楽的なよさを話し、思いや意図を実現するための表現の工夫や、演奏の工夫を確認できるようにする。また、そこからお互いのよさを学び合ったり、自分たちの音楽に生かしたりできるようにする。 ○ めあてに対する振り返りになるよう助言し

<p>打ち方を工夫しました。みんなに当ててもらえて、イメージ通りの音がつくれたと思いました。</p> <p>(2) 次時の課題を確認する。</p>	<p>ながら個別指導し、意図的な指名に生かす。</p> <p>○ 次時は、いろいろな雨の音楽を聴いて構成の特徴を見付けたり自分たちのつくった音楽と比べて聴いたりする学習を行うことを伝える。</p>
---	--

<成果と課題>

これまでに即興的な表現や音楽づくりを授業の中に取り入れてきたので、創意工夫しながら音楽をつくることの楽しさを味わうことができる力が児童に育まれていた。今回の題材でも、まず音を限定して即興的に演奏することを十分に楽しんでから、各グループのテーマに沿った音楽づくりを行った。ドローンに合わせて旋律をつくることは難しかったが、音楽づくりを行う上での素地がしっかりしていたので、児童は自信をもって創意工夫することができた。

授業後の研究協議では、音楽づくりの授業を行う上では日々の積み重ねが大切であること、表現の基となる根拠や思考の過程を記録する場を授業に設定することが大切であることが確認された。

② 中学校ブロック

第2学年 題材名「曲の背景を想像して」

授業者 下妻市立千代川中学校 笠井 明美

題材の目標

「花の街」の歌詞が表す情景や心情を生かした歌唱表現を工夫し、思いや意図をもって曲にふさわしい発声、日本語の発音で歌う。

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ (◆学習活動における具体的評価規準)
<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <p>(1) 全体の課題を把握する。</p>	<p>○ 「花の街」の楽曲構成の確認することで課題を明らかにし、本時の学習への関心を高める。</p>
<p>「花の街」の3番の表現の工夫をしよう</p>	
<p>(2) 学習の雰囲気づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肩たたき ・校歌 ・県民の歌 ・時の旅人 	<p>○ 音楽に合わせて肩たたきを行うことで、のびのびと表現しようとする雰囲気づくりをする。</p> <p>○ 校歌と県民の歌を毎時間歌うことで、大きな声で自信をもって歌うことができる学校にすることを意識させる。</p>
<p>2 「花の街」を3番まで歌う。</p> <p>3 3番について表現の工夫をする。</p> <p>(1) 表現の工夫を考えて記入する。</p> <p>(2) 個人で考えた工夫点と表現をグループ内で発表し合い再考する。</p>	<p>○ 歌い終わった時に、感想を言い合うことで、自分の思いや考えを主体的に表現する活動へとつなげる。</p> <p>○ 画像を提示しながら曲の背景や江間章子さんのコメントを振り返り、「花の街」に込められた思いを想起できるようにする。</p> <p>○ 生徒の意見を取り上げながら、常に音を出して試させたり、確かめさせたりする。</p>

<p>〈予想される生徒の記入例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は、戦後の苦しく悲しい様子を表すように静かに <p>(3) グループで練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えた強弱をつけて ・歌詞に合う声の音色で ・歌詞に合う表情で ・日本語の発音を大切に <p>4 各グループで工夫したものを掲示し、「花の街」を全員で歌う。</p> <p>5 「花の街」の歌曲をとおして、自分が伝えたいことは何か書いていく。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 本時の学習を振り返る。</p> <p>(2) 次時の学習課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽活動と言語活動の往還が生まれるよう、タブレットPCを使って自分たちの演奏を確かめるように話す。 ○ グループ同士が離れた場所に移動して、他のグループの影響をなくすようにする。 ○ 話し合って練り上げた部分を、グループリーダーを中心に繰り返し練習するように指示し、自分たちの思いを込めた歌にしていくように話す。 ○ 工夫した点を表現につなげることができるように、歌い方をいろいろと試すようにする。 ◆ 「花の街」の歌詞が表す情景や心情を感じ取って、曲にふさわしい歌唱表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ○ 全員が同じ楽譜を見て歌うようにする。 ○ 自分の意見を発表することで、達成感を味わえるようにする。 ○ 目標に対する振り返りになるよう助言しながら個別指導する。 ○ 次時の課題は、グループごとに発表会を行うことであることを伝える。
---	---

<成果と課題>

協働的に活動できるようにするための仕掛けがたくさんあり、生徒たちは「花の街」の楽譜から読み取ったことを基に、自分たちの思いをどのように表現したらよいかについて活発に試行錯誤することができていた。歌っている時の生徒たちの表情も生き生きとしており、自分の思いを表現できている充実感を見取ることができた。

授業後の研究協議では、「花の街」の歌詞の内容や曲想を考える上での手掛かりが作詞者のメッセージや楽曲がつくられた当時の写真からも読み取ることができたこと等が例に挙げられ、生徒が表現を考えていく際の教師の手立てが表現を創意工夫していく際の拠り所となり、重要であることが確認された。

3 本年度の成果と課題

単に楽曲を表現できるようになるだけではなく、自分なりの思いや意図をもち、試行錯誤しながら表現をより豊かに練り上げていく過程こそが、音楽に対する感性を育てると共に、音楽活動への充実感を味わうことができる重要なものである。今年度の行われた研究授業でも、それぞれの児童生徒が感じたことを協働的な学習を通して伝え合い、1人では成し遂げられなかったような表現が生まれ、有意義なものとなった。

研究授業後の研究協議では、小学校・中学校共に普段の授業での基礎的な技能や協働的な学習の積み重ねが重要であることが確認された。今年度の研究で学んだことを生かしながら、今後も毎日の1つ1つの授業を大切にしていくことで、研鑽を深めていきたい。

(文責 県西ブロック事務局長 橋本 博音)

第60回関東音楽教育研究会千葉大会報告

事務局 井上 寛士

感じ取り 表現し 共に伝える音楽のよろこび

1 期 日 平成30年11月16日(金)

2 会 場 松戸市立八ヶ崎第二小学校
松戸市民会館・松戸市文化会館(森のホール21)

3 大会主題 感じ取り 表現し 共に伝える音楽の喜び
[視点1] 音楽科のよさや楽しさ, 美しさを感じ取れる授業の工夫
[視点2] 思いや意図をもって表現し, 味わい, 聴いたりできる授業の工夫
[視点3] 主体的・協働的に音楽活動に取り組むことのできる授業の工夫

4 公開授業題材名

集 会	全学年	全校で合唱奏をしよう
音楽づくり	小2	ひょうしをかんじてリズムをつくろう
音楽づくり	小4	日本の音楽に親しみ, 日本の音階でせんりつをつくろう
器 楽	小5	曲想を感じ取り, 楽器の特徴を生かして表現しよう
鑑 賞	小5	日本歌曲を味わおう～山田耕筰の歌曲を通して～
創 作	中2	音やリズムの重なりを工夫してヴォイスアンブルをつくろう
歌 唱	中3	歌詞に込められた思いを歌で表現しよう
鑑 賞	中2	長唄の表現の多様性を感じ取って日本の音楽に親しもう
鑑 賞	中3	作曲者の思いを感じ取って聴き, 音楽のよさや美しさを味わおう

5 大会概要

大会開催に先立ち, 前日レセプションが開催され, 各県から多くの参加者があった。開催県の歌である「里の秋」から始まり, 各県の歌を紹介するなど, 音楽にあふれた会となった。

当日は, 3会場で9つの公開授業が展開された。どの授業も研究の軌跡が感じられる意欲的な授業であった。中学校の創作の授業では, 反復, 変化, 対照などの構成や全体のまとまりを意識しながらヴォイスアンサンブル曲を創作していた。グループで協力して創作することにより, [視点3]の主体的・協働的に音楽活動に取り組むことのできる授業が具現化されていた。また, [共通事項]に示された音楽の要素のうち, どの部分を重視して創作をしたのか, 他の班が知覚できるよう演奏するという活動が行われることにより, [視点2]の思いや意図をもって表現し, 味わい, 聴いたりするという面がより明確になっていた。これらの授業構成の工夫により, [視点1]の音楽科のよさや楽しさ, 美しさを感じ取れる授業となっていた。分科会は, 「教科経営部会」という特徴的な分科会があるなど, 千葉県として研究してきた過程や成果が十分に伝わってきた。さらに, 活発な意見を交わす雰囲気の中で行われ, 大変有意義であった。全体会は, 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官, 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の志民一成先生, 千葉大学教育学部教授の本多佐保美先生の講話でこの千葉大会全体を振り返ることができた。研究演奏では, 特徴的な活動をしている学校や, コンクールで優秀な成績を収めている学校の演奏が披露され, 今後の活動への意欲となった。

編 集 後 記

今年度は、各ブロックで授業研究を行い、音楽研究部全体で「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」のテーマのもと実践を積み、たくさんの成果をあげることができました。これも、各郡市部長の先生方・研究推進にあたられた先生方のご努力の賜と深く感謝申し上げます。

夏に次期学習指導要領の研修会があり、小学校は2020年度から、中学校は2021年度から実施できるようにしっかりと準備していく必要があると感じています。それに向けてより一層先生方の力を合わせて研究を推進していけるよう努めていきたいと思えます。

最後に、紀要の作成にあたりましては、関係の先生方からのご支援・ご協力をいただきましたことに心から感謝いたします。

編 集 茨城県教育研究会音楽教育研究部
部長 川井 洋子

県音楽教育研究部事務局 井上 寛士
茨城大学教育学部附属中学校内
〒310-0056 水戸市文京 1-3-32
T E L 029-221-5802
F A X 029-221-3387

研究推進委員会事務局 栗本 真樹子
常陸大宮市立大宮中学校内
〒319-2266 常陸大宮市抽ヶ台町 3117
T E L 0295-52-0068
F A X 0295-52-1451